

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 中心市街地の活性化の目標

中心市街地の活性化の基本的な方針は、「買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす」「訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす」「居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす」であり、これらの基本方針を実現するため、次の2つの目標を設定する。また、目標の実現にあたっては、川西市中心市街地活性化協議会でまとめられた「ハート&アートな街 かわにしのせぐち」のイメージから、空間デザインやグローバルデザインなどのデザイン要素を取り入れることや、子どもたちやお年寄りにとって、暮らしやすく、ここからおもてなしするまちづくりに挑戦し、中心市街地の商業の活性化と、居住者や来街者の回遊性と滞留性を高めるために、様々な地域資源を効率よく活用して持続的なまちづくりにつなげていく。

活性化のキャッチフレーズ

ハート&アートな街 かわにしのせぐち

中心市街地活性化の3つの基本的な方針

<基本方針1>

買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす

<基本方針2>

訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす

<基本方針3>

居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす

中心市街地活性化の目標

<目標1>

魅力的で活気のある
『かわにしのせぐち』の創造

<数値目標>

年間商品販売額（小売業）

<目標2>

楽しみながら回遊したくなる
『かわにしのせぐち』の創造

<数値目標>

休日の歩行者通行量

<参考指標>

来街者の平均滞留時間

(1) 目標 1 について

中心市街地は公共交通機関の結節点であり、大型商業施設などの集客施設が集積している。また、公共・公益施設などが分布しており、非常に利便性が高い地域であることから、中心市街地には通勤・通学者が日常的に往来し、居住者だけでなく多くの市民が買い物や飲食のために訪れている。また、アステ川西やモザイクボックス、ベルフロラかわにしなどのショッピングセンターは阪神間でも人気が高く、特に若者を中心に近隣市町からの来街者も多い。

しかし、社会経済状況の変化や市街地再開発事業などの事業化の遅れ、再開発ビルなどの商業施設の老朽化により、まち全体の魅力が低下するなど、中心市街地の年間商品販売額（小売業）の減少が続いており、中心市街地が本市を含む北阪神地域での重要な都市拠点であるにもかかわらず、中心市街地の商業活力は低迷している。このため、若者をターゲットとした魅力的なテナント誘致と再開発ビルなどのリニューアル、中心市街地のバリアフリー化や、子育て世代をサポートする育児支援施設の充実などにより、買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のある商業環境を整備し、まちの活性化をめざす。

(2) 目標 2 について

中心市街地の人口密度は高く、多くの居住者が暮らしているほか、中心市街地は通勤・通学者や近隣市町からの来街者でにぎわっている。

しかし、歴史的・文化的資源や景観資源、社会資本・産業資源などの地域資源を活用したイベントの取り組みや、各商店会と諸団体が連携した活性化のための取り組みが進まず、居住者がまちを散策することや、来街者がまちを回遊することが非常に少ない。また、川西能勢口駅周辺の鉄道駅の 1 日あたり約 14 万人の乗降客の多くは、鉄道やバスを利用して大阪市や阪神間、神戸市方面へ通過しており、街なかに立ち寄らず、まちを回遊することや滞留することが少ない。

このため、公共スペースのある再開発ビルのリニューアルのほか、バリアフリーの推進、若者に人気のあるダンスコンテストや幅広い年齢層に人気の高いストリート落語、まちの居住者が利用している朝市をはじめとするイベントなどの取り組みによる回遊性の向上により、中心市街地に訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなる交流環境を整備し、まちの活性化をめざす。

[2] 計画期間の考え方

中心市街地を活性化するため、目標実現を牽引する本市の取り組みを進めるとともに、地域住民や民間事業者による様々な活性化のための事業との整合を図りながら、中心市街地の活性化を推進していく。また基本計画の計画期間は、平成 22 年度（平成 22 年 11 月）から事業の効果が見込まれる平成 26 年度（平成 27 年 3 月）までの 4 年 5 箇月とし、平成 26 年度を目標年度とする。

[3] 数値目標の設定の考え方

中心市街地活性化の基本方針につながる 2 つの目標から、それぞれの達成状況を把握できる数値目標を定め、その数値に関するフォローアップを行うことを通して達成状況の進行管理を行う。

中心市街地活性化の目標	数値目標
目標 1：魅力的で活気のある『かわにし のせぐち』の創造	年間商品販売額（小売業）
目標 2：楽しみながら回遊したくなる『かわにし のせぐち』の創造	休日の歩行者通行量 来街者の平均滞留時間（参考指標として）

(1) 目標 1：魅力的で活気のある『かわにし のせぐち』の創造

1) 数値目標の考え方

数値目標としては、計画区域内で実施する再開発ビルのリニューアル事業及び市街地再開発事業、都市福利による買い物環境の整備、居住人口の増加などにより効果が見込まれる「年間商品販売額（小売業）」を評価指標とする。

2) 数値目標の設定

中心市街地における年間商品販売額（小売業）の推移は、平成 9 年は 668.22 億円であったが、平成 14 年では 611.93 億円、平成 19 年では 556.21 億円となっており、平成 9 年の数値に対し、平成 19 年の割合は 83.2% である。この 10 年間に 112.01 億円が減少し、1 年間に平成 9 年の数値の 1.68%、11.20 億円が減り続けている。

一方、北部の大型商業施設であるジャスコ猪名川店が平成 19 年にリニューアル工事と駐車場の増築を実施したことにより、魅力的な商業空間が整備されるなど、相当数の買い物客が同施設へ訪れているため、本市の中心市街地では、引き続き買い物客が減少していくことが予想される。このため、平成 19 年の数値に歩留まりをかけ、基本計画による各種事業を展開することにより年間商品販売額（小売業）の増加をめざす。

当該基本計画の計画期間においては、再開発ビルのリニューアルなどによる商業環境の整備を実施するとともに、子育て支援の充実や街なか居住の推進、様々なイベントなどの実施による相乗効果を鑑み、減少傾向に歯止めをかけるとともに、回帰式により推計した平成 21 年度の年間商品販売額（小売業）の推計値約 536 億円に対して、平成 26 年度には現況数値とほぼ同額の約 540 億円をめざす。

評価指標	現況数値 (平成 21 年度)	将来目標 (平成 26 年度)	割合
年間商品販売額（小売業）	約 536 億円	約 540 億円	100.7%

3) 年間商品販売額（小売業）の推計値と増加の考え方

中心市街地活性化基本計画の施策を実施しない場合、平成 9 年から平成 19 年までの 10 年間と同様に減少傾向が続くと想定して、この 10 年間の実績値をもとに、回帰式により平成 26 年の年間商品販売額（小売業）を求めると、約 503.32 億円と推測され、中心市街地の商業活力はかなり低迷するものと予想される。なお、回帰式については、全市及び中心市街地の人口や川西能勢口駅及び川西池田駅の乗降客数が微増、もしくは横ばいであることから、減少

傾向は緩やかに下がるとして、累乗近似による推計とした。

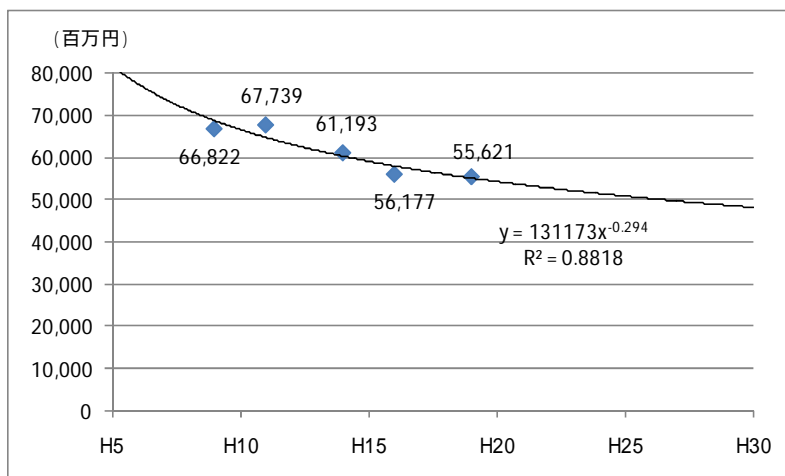
年間商品販売額（小売業）の推移

年次		平成 9 年	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年
中心市街地	実数（百万円）	66,822	67,739	61,193	56,177	55,621
	指数（%）	100.0	101.4	91.6	84.1	83.2

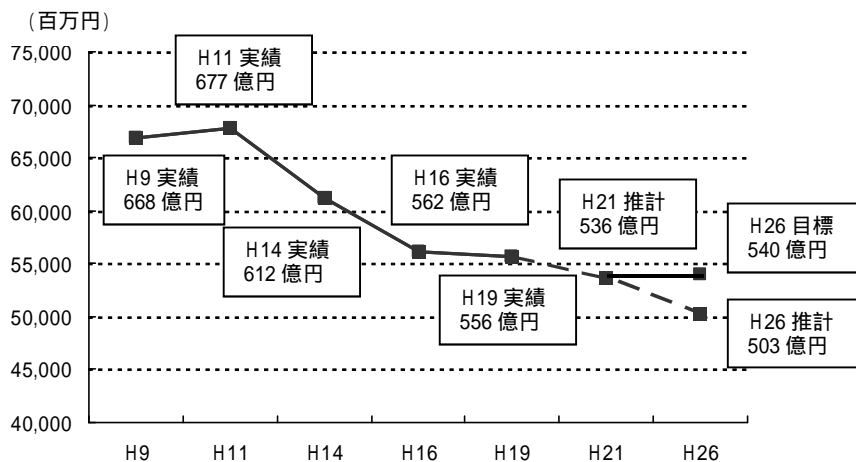
資料：商業統計調査

中心市街地において施策を実施しない場合の年間商品販売額（小売業）の推計値

年次		平成 19 年	平成 21 年	平成 26 年
中心市街地	実数（百万円）	55,621	53,593	50,332
	指数（%）	100.0	96.4	90.5



以上から、数値目標とする増加の考え方は次の通りである。



4) 具体的な数値目標

アステ川西地下 1 階リニューアル事業による効果：18.31 億円

アステ川西地下 1 階において実施する「21：アステ川西地下 1 階リニューアル事業」は、所有と利用の分離手法を活用することにより、マーケットニーズに合ったフロア構成が可能になる。これまでの再開発ビルの商業区画は、従前権利者が権利変換方式により取得する独立区画となり、個人営業者の廃業や休業から空き区画の発生が多く見られ

る。このため、当事業で実施する所有と利用の分離手法では、床所有者と長期賃貸借契約を結び、床を一括管理してテナントミックスを行う手法である。当該事業の実施により、食品スーパーを核テナントとして誘致し、食料品販売のほか実演惣菜や実演スイーツなどの新たなコーナーが配置されるなど、魅力的で活気のある売り場を創出することから小売業の年間商品販売額の増加が見込まれる。

) 地下 1 階の新規導入店舗及び既存店舗の契約面積及び年間商品販売額の予想数値は、以下の一覧表のとおりである。

アステ川西地下 1 階の年間商品販売額の設定（平成 22 年度のリニューアル後の推計値）

業 種		小売業の契約面積 (㎡)	月 1 ㎡あたりの販売額の予想 (円)	小売業の年間商品販売額の予想 (千円)
新規店舗	小売業 (食品スーパー)	1,891.26	81,400	1,846,800
小 計				1,846,800
既存店舗	小売業 (食料品販売)	435.97	107,400	43,500
既存店舗	小売業 (食料品販売)			66,100
既存店舗	小売業 (食料品販売)			6,300
既存店舗	小売業 (食料品販売)			37,300
既存店舗	小売業 (食料品販売)			3,500
既存店舗	小売業 (食料品販売)			9,800
既存店舗	小売業 (食料品販売)			29,900
既存店舗	小売業 (食料品販売)			365,600
小 計				562,000
合 計		2327.23	86,300	2,408,800

資料：川西都市開発株式会社

- 1) 新規参入店舗（食品スーパー）の月 1 ㎡あたりの販売額の予想数値については、出店候補者の予想数値で設定した。
- 2) 平成 22 年度のリニューアル後における既存店舗の月 1 ㎡あたりの販売額の予想数値については、各店舗の販売実績を基に、平成 18 年度から平成 20 年度の販売額の平均値より設定した。
- 3) 既存店舗の契約面積及び月 1 ㎡あたりの販売額の予想数値については、既存店舗の個人情報を配慮して、契約面積については既存店舗面積の合計、販売額については既存店舗販売額の平均値とした。

) アステ川西地下 1 階リニューアル事業の完成により、新規参入店舗（食品スーパー）の年間商品販売額（小売業）の予想数値約 18.47 億円と既存店舗の年間商品販売額（小売業）の予想数値約 5.62 億円の合計約 24.09 億円が見込まれる。

$$\text{計算式：} 18.47 \text{ 億円} + 5.62 \text{ 億円} = 24.09 \text{ 億円}$$

) 具体的な数値目標としては、回帰式により求めた中心市街地における平成 19 年度の年間商品販売額（小売業）に対する平成 26 年度の年間商品販売額（小売業）の指数が 90.5%であることから、地下 1 階における食料品販売の平成 19 年度の販売額約 6.39 億円が平成 26 年度には約 5.78 億円に減少すると予想される。

$$\text{計算式：} 6.39 \text{ 億円} \times 90.5\% = 5.78 \text{ 億円}$$

) 当該事業が完成し、効果が見込まれる平成 23 年度の数値を平成 26 年度まで持続させるとして、基本計画の計画期間内の年間商品販売額の実質的な収益効果は約 18.31 億円が見込まれる。

$$\text{計算式：} 24.09 \text{ 億円} - 5.78 \text{ 億円} = 18.31 \text{ 億円}$$

平成 19 年度のアステ川西地下 1 階の年間商品販売額

業 種		平成 19 年度
アステ川西 地下 1 階	小売業	638,682,414 円
	飲食店	356,936,880 円
	合 計	995,619,294 円

21：アステ川西地下 1 階リニューアル事業

事業の実施主体：川西都市開発株式会社

事業の実施時期：平成 22 年度

事業の概要

テナントミックス事業

現在長期的な空き店舗となり周辺にも影響を与えている区画を含めて、アステ川西地下 1 階のフロアを所
有と利用を分離したうえで、全面改修を実施し、準核店舗のスーパーマーケット及び既存店舗とする。リニ
ューアル事業については、バリアフリー化などにより、あらゆる世代が楽しめるフロア整備を行う。また、フロ
ア内に約 33 m²のコミュニティプラザのスペースを確保し平成 23 年度以降に絵画、写真、陶板などの展示ス
ペース、休憩スペースのほか、タッチパネル方式のディスプレイボードを使った、行政の取り組みや地域の話
題などの情報発信スペースや、地域情報の案内誌、チラシやパンフレットなどの設置により、中心市街地を廣
く宣伝し、来街者の交流を図る。

オープニングイベント事業

地下 1 階フロアの改修後、ゲストタレント等を招聘したオープニングイベントやサービスを提供すること
により、集客力を高めて将来のはずみづくりを実施する。

アステ川西の来館者が増えることによる上層階への噴水効果：3.93 億円

）前述のとおり、アステ川西地下 1 階リニューアル事業により、新規導入店舗の出店に
より年間商品販売額（小売業）については約 18.31 億円の増加が見込まれる。また、
平成 19 年度の実績において、アステ川西の食料部門の客単価が約 3 千円であることか
ら、売り上げ増による来客数の増加は、年間あたり約 61 万人が見込まれることが予想
されるため、館内全体への噴水効果が十分に期待される。

計算式：18.31 億円 ÷ 3 千円/人 610,300 人

）具体的な数値目標としては、近年におけるアステ川西の 1 日あたりの来館者数が約
22,000 人で推移している。

アステ川西の来館者数

年 次	平成 20 年		平成 21 年		平均値
	休日	平日	休日	平日	全日
アステ川西 2 階南側入口の実数（人）	24,944 人	22,474 人	21,530 人	18,365 人	21,828 人

資料：川西都市開発株式会社

）以上から、休館日を除く 1 年間の来館者数は約 792 万人となり、この数値に対する
約 61 万人の割合が 7.70%であることから、平成 19 年度の年間商品販売額（小売業）
の約 51 億円に対して約 3.93 億円増加をめざす。

計算式：22,000 人 × 360 日 = 792 万人

計算式：51 億円 × (61 万人 ÷ 792 万人) 3.93 億円

アステ川西専門店（小売業）における 1㎡あたりの売上高

階層別	平成 19 年度		
	年間商品販売額 (千円)	売場面積 (㎡)	月 1㎡あたりの 平均販売額 (円)
地下 1 階	638,682	561.53	94,783
1 階以上	4,461,720	6,455.33	57,597
合 計	5,100,402	7,016.86	60,573

資料：川西都市開発株式会社

アステ川西大規模改修事業による効果：5.19 億円

) 平成 22 年 3 月末におけるアステ川西 1 階以上の空き店舗は以下の通りである。

平成 22 年 3 月時点のアステ川西の空き店舗状況（地下 1 階を除く）

階 数	物 販		飲 食		事務所等	
	店舗数 (店)	面積 (㎡)	店舗数 (店)	面積 (㎡)	店舗数 (店)	面積 (㎡)
1 階	3	217.95	0	0	0	0
2 階	5	409.64	0	0	0	0
3 階	2	122.62	4	353.09	0	0
5 階	0	0	0	0	1	103.06
合 計	10	750.21	4	353.09	1	103.06

資料：川西都市開発株式会社（4 階、5 階の一部は市立中央図書館、6 階はアステホール及び文化教室）

) 「22：アステ川西大規模改修事業」の事業実施時期が平成 24 年度実施設計、平成 25 年度商業フロア整備、平成 26 年度多目的ホール及びその他の改修となっており、具体的な数値目標としては、当該事業の実施により、アステ川西 1 階以上の物販 10 店の空き店舗が解消され、当該事業の完成により効果が見込まれる平成 25 年度に約 5.19 億円の年間商品販売額（小売業）の増加をめざす。なお、1㎡あたりの売上高については、前述した平成 19 年度のアステ川西 1 階以上の専門店（小売業）における月 1㎡あたりの平均販売額の数値を採用する。

計算式：750.21㎡×57,597千円（平成 19 年度の月 1㎡あたりの平均販売額）×12ヶ月 5.19 億円

22：アステ川西大規模改修事業

事業の実施主体：川西都市開発株式会社

事業の実施時期：平成 24～26 年度

事業の概要

アステ川西 1 階～6 階において、店舗・共用通路のゾーン変更に関する改修工事、バリアフリーの対策工事、トイレの改修などの老朽化対策を行い、東京や大阪で人気の高いファッション、生活雑貨の大型テナントなどを誘致するなど、約 14 万人の鉄道乗降客の「ついで買い」を誘致する仕掛けづくりを行う。また、子育て世代をサポートする育児支援施設を充実させる。さらに、太陽光発電装置などの設置により、供給電力を削減する取り組みの検討や、買い物マイバック促進の取り組みの検討などに積極的に取り組み、環境に優しいショッピングセンターをめざす。また、アステホールについては、当施設での音響・防音・照明設備と内装の改修を行うなど、ニーズの高い文化活動の発表の場として、高機能化を図り来街者の増加をめざす。

川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業の効果：6.21 億円

) 平成 24 年度から実施される「01：川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業」により、計画売り場面積約 855㎡のショッピングセンターが開業し、魅力的な買い物環境が整備される。当該事業の基本計画概要は表のとおりである。計画店舗数約 10 店の出店テナントは未定であるが、川西能勢口駅東地区におけるイメージアップや

対流性の向上につながる業種選択をする予定である。

川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業の基本計画概要

施行者	権 利 者	計画住宅戸数	約 60 戸
施行区域面積	約 0.18 ha	計画店舗数	約 10 店
計画敷地面積	約 1,800 m ²	計画売り場面積	約 855 m ²
計画延べ面積	約 8,100 m ²	計画駐車台数	約 36 台

資料：川西市 市街地・空港周辺整備課

）平成 26 年度年間商品販売額（小売業）については、当該事業に新規出店するテナントが未定であるため、前述のアステ川西における平成 19 年度の月 1 m²あたり平均販売額 60,573 円を採用する。

）具体的な数値目標としては、当事業の完成により効果が見込まれる平成 26 年度に約 6.21 億円の年間商品販売額（小売業）の増加をめざす。

計算式：855 m²×60,573 円×12 ヶ月 6.21 億円

01：川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業

事業の実施主体：川西能勢口駅東地区第2工区権利者

事業の実施時期：平成 24～25 年度

事業の概要

川西能勢口駅東地区の木造建築物の密集地において、土地の高度利用と生活環境の整備を行い、街なか居住の推進として、約 60 戸の住宅と商業施設を設置する。当事業の商業施設の戦略としては、川西能勢口駅周辺のイメージアップや対流性の向上につながるような業種選択をし、川西能勢口駅東地区において新しく整備されるショッピングセンターとして、周辺の居住者や鉄道利用者が気軽に買い物できる買い物空間の整備や、来街者の回遊を促進させるなど、サービスを充実させるための個性的な商店を誘致し、地域密着型の店舗づくりを行う。

子育て支援などの都市福利による共稼ぎ家庭の買い物による効果：0.72 億円

）中心市街地では、これまで共稼ぎ家庭への子育て支援として、ファミリーサポートセンター事業や、地域子育て支援事業、市立中央図書館子ども読書サポート事業などに取り組んでいるが、今後はさらに事業を充実させていくとともに、計画期間内にアステ川西内に「一時子ども預かり所」を開設し、買い物をしやすい商業環境を整備する。

）近隣市におけるアステ川西と同種同規模のショッピングセンターの「一時子ども預かり所」の利用実績は、施設規模や有償・無償などの条件の違いはあるが、定員 12 名で休日（土日・祝日）の延べ利用者が約 70 人、平日の延べ利用者が約 25 人となっている。こうしたことから、アステ川西の「一時子ども預かり所」の開設により、1 年間の利用者については約 14,400 人を見込む。

計算式：70 人×120 日（土日・祝日）+25 人×240 日（平日）=14,400 人

）具体的な数値目標としては、平成 19 年度の実績において、アステ川西の食料部門及びその他の部門の客単価の合計が約 5 千円であることから、効果が見込まれる平成 26 年度に 0.72 億円の増加をめざす。

計算式：14,400 人×5 千円=0.72 億円

居住人口の増加による効果：2.42 億円

）居住人口増加の要因としては、市街地再開発事業などの実施、都市福利活動の実施、街なかへの住み替え促進などがあげられる。

）まず、市街地再開発事業については、川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備

事業が計画されており、同基本計画において住宅の計画戸数は約 60 戸となっている。平成 17 年における中心市街地での平均世帯人員は、2.32 人（P.10 参照）であることから、完成が予定されている平成 24 年度に 139 人の居住人口の増加が見込まれる。

$$\text{計算式：} 60 \text{ 世帯} \times 2.32 \text{ 人} = 139 \text{ 人}$$

）次に、これまで中心市街地において、子育て支援などの都市福利活動のほかに図書館活動や文化・芸術活動が進められており、共稼ぎ家庭が働きやすい環境と住民参加のまちづくりを推進することにより、街なかへの住み替え促進など、居住者の増加をめざす。

）平成 7 年に 7,230 人（P.8 参照）であった区域内的の居住者が、平成 17 年に 8,468 人（P.8 参照）となっており、10 年間に 1,238 人が増え、1 年あたり 124 人が増加している。基本計画の都市福利活動の充実や市民サービスの向上など増加傾向を継続させ、間接的な効果が見込まれる平成 26 年度までに 5 年分 620 人の増加をめざす。

$$\text{計算式：} 124 \text{ 人} \times 5 = 620 \text{ 人}$$

）以上から、計画区域内的の居住人口があわせて 759 人が見込まれ、小売業の年間商品販売額の増加が見込まれる。中心市街地の年間商品販売額（小売業）は 556.21 億円であり、平成 19 年 12 月末の全市の人口 160,843 人及び他市からの 15 歳以上の流入者数 13,639 人（P.11 参照：平成 17 年国勢調査による就業者と通学者の合計）の合計 174,482 人に対する 1 人あたりの数値は 319 千円であることから、効果が見込まれる平成 26 年度に 2.42 億円の年間商品販売額（小売業）の増加をめざす。

$$\text{計算式：} 160,843 \text{ 人} + 13,639 \text{ 人} = 174,482 \text{ 人}$$

$$\text{計算式：} 55,621 \text{ 百万円 (平成 19 年)} \div 174,482 \text{ 人} = 319 \text{ 千円}$$

$$\text{計算式：} (139 \text{ 人} + 620 \text{ 人}) \times 319 \text{ 千円} = 2.42 \text{ 億円}$$

効果の推計

以上から、直接的施策による効果及び間接的な効果としての増加が見込まれる小売業の年間商品販売額として 36.78 億円の増加をめざす。

$$\text{計算式：} 18.31 \text{ 億円} + 3.93 \text{ 億円} + 5.19 \text{ 億円} + 6.21 \text{ 億円} + 0.72 \text{ 億円} + 2.42 \text{ 億円} = 36.78 \text{ 億円}$$

5) 目標達成のための総括表

総括表

項目	増加の要因等	増加額等
現況	平成 21 年度の年間商品販売額（小売業）	535.93 億円
計画	アステ川西地下 1 階リニューアル事業による効果	18.31 億円
	アステ川西の来館者が増えることによる上層階への噴水効果	3.93 億円
	アステ川西大規模改修事業による効果	5.19 億円
	川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業の効果	6.21 億円
	子育て支援などの都市福利による共稼ぎ家庭の買い物による効果	0.72 億円
	居住人口の増加による効果	2.42 億円
	増加の要因等の合計 = + + + + +	36.78 億円
施策を実施しない場合の平成 26 年度の年間商品販売額（小売業）の推計値		503.32 億円
平成 26 年度の年間商品販売額（小売業）の目標値 : 503.32 億円 + 36.78 億円 = 540.10 億円		540.10 億円

資料：商業統計調査等

(2) 目標2：楽しみながら回遊したくなる『かわにしのせぐち』の創造

1) 数値目標の考え方

数値目標としては、計画区域内で実施する「25：かわにしにぎわい創出イベント事業」のほか、再開発ビルのリニューアル事業及び市街地再開発事業、街なかを回遊するためのネットワーク構築事業などにより効果が見込まれる「休日の歩行者通行量」を評価指標とする。

また、中心市街地に点在する地域資源を活用した地域イベントなどの取り組みを継続的に展開するほか、阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線の川西能勢口駅とJR宝塚線川西池田駅の約14万人の乗降客や中心市街地に訪れた来街者が、商業施設などへ「ついで買い」のために立ち寄ることを仕掛けるため、魅力的な商店を配置するなどから、来街者がまちに滞留することを想定し、楽しみながら回遊したくなるまちの参考指標として「来街者の平均滞留時間」を設定する。

2) 数値目標の設定

本市の中心市街地活性化基本計画の大きな目標は、中心市街地での来街者の回遊性や滞留性の向上である。阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線川西能勢口駅とJR福知山線川西池田駅の乗降客数は約14万人であり、これらの駅利用者やこれまでの来街者を回遊させることにより滞留時間が延長し、中心市街地の活性化に繋がるものとする。そこで、中心市街地において、8箇所のポイントを定め、各ポイントにおいて歩行者通行量を増加させることをめざす。

阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線川西能勢口駅とJR福知山線川西池田駅周辺の8箇所のポイントにおける休日の歩行者通行量の推移は、平成8年度は101,288人であったが、平成13年度では96,453人、平成20年度の調査では67,512人、平成21年度の調査では56,368人となっており、平成8年度の休日の歩行者通行量に対し、平成21年度の割合は55.7%である。この13年間に44,920人が減少しており、1年間に平成8年度の休日の歩行者通行量の3.41%、3,455人が減り続けている。この傾向は、商業ビルの老朽化や商業活力の停滞による魅力の低下など、中心市街地の活力が衰退していることから、引き続き歩行者の回遊が減少していくことが予想されるため、平成21年度の数値に歩留まりをかけ、基本計画による各種事業を展開することにより、休日の歩行者通行量の増加をめざす。

当該基本計画の計画期間においては、かわにしにぎわい創出イベント事業などにより、まちを回遊したくなる交流環境の整備を実施するとともに、魅力的な商業環境の整備、子育て支援の充実や街なか居住の推進などによる相乗効果を鑑み、減少傾向に歯止めをかけるとともに、平成21年度の休日の歩行者通行量の56,368人に対して、平成26年度には約62,000人をめざす。

評価指標	現況数値 (平成21年度)	将来目標 (平成26年度)	割合
休日の歩行者通行量	56,368人	約62,000人	110.0%

3) 休日の歩行者通行量の推計値と増加の考え方

中心市街地活性化基本計画の施策を実施しない場合、平成8年から平成21年までの13年間と同様に減少傾向が続くと想定して、この13年間の実績値をもとに、回帰式により平成26年度の休日の歩行者通行量を求めると55,827人と推測され、中心市街地での回遊性や滞

留性は向上せず、にぎわいはかなり減少するものと予想される。なお、回帰式については、全市及び中心市街地の人口や川西能勢口駅及び川西池田駅の乗降客数が微増、もしくは横ばいであることから、減少傾向は緩やかに下がるとして、累乗近似による推計とした。

また、こうした状況から、これまでのまちづくり活動の中で、既にアステかわにし繁昌亭やダンスコンテストなどの実績があることや、文化への関心が高い市民やファミリー世代が多く、落語や若者向けのイベントが適切であること、中央北地区やみつなかホールなど、中心市街地に集積した施設の有効活用と「デッキから人をおろす」ことによる回遊性の向上などを取り組むことにより歩行者通行量の増加をめざすことが、楽しみながら回遊したくなる「かわにしのせぐち」の創造の実現に有効であると考えます。

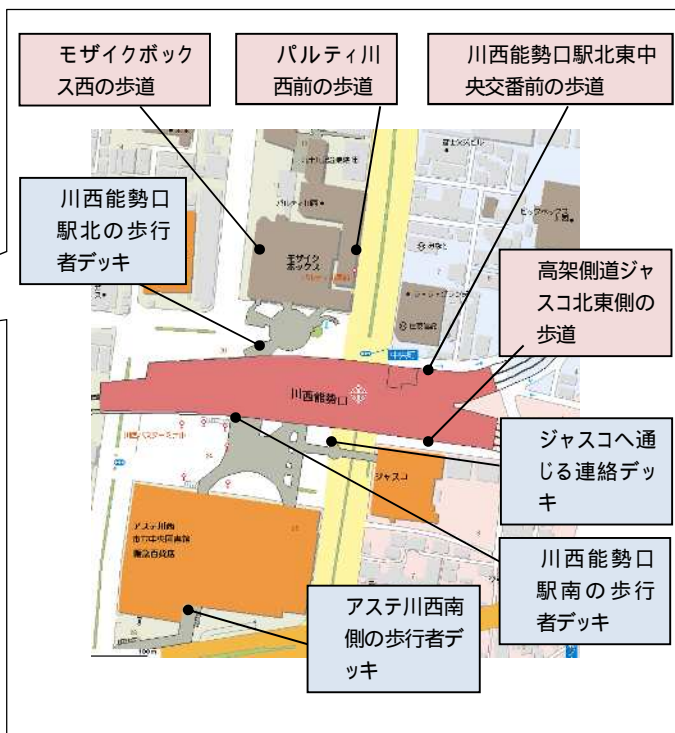
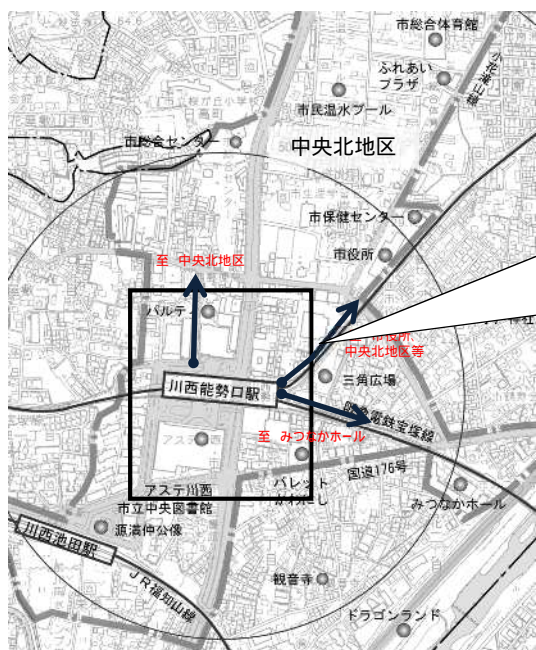
休日の歩行者通行量

単位：人

歩行者通行量調査地点		平成 8 年度	平成 13 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
地上	パーティ川西前の歩道	4,477	4,193	2,802	2,984
	モザイクボックス西の歩道	4,978	5,706	4,472	4,341
	川西能勢口駅北東中央交番前の歩道	5,096	5,397	3,568	3,344
	高架側道ジャスコ北東側の歩道	7,285	6,405	2,533	1,288
歩行者デッキ	川西能勢口駅北の歩行者デッキ	11,647	17,615	13,249	10,652
	川西能勢口駅南の歩行者デッキ	34,686	31,278	24,944	21,530
	アステ川西南側の歩行者デッキ	9,975	12,685	13,313	11,572
	ジャスコへ通ずる連絡デッキ	23,144	13,174	2,631	657
合計		101,288	96,453	67,512	56,368
指数 (%)		100.0	95.2	66.7	55.7

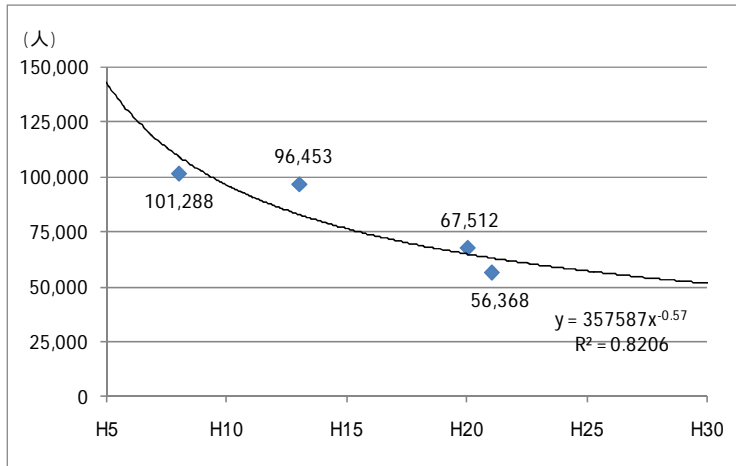
資料：平成 8 年度及び平成 13 年度は川西能勢口駅周辺歩行者通行量調査（川西市商工会）
平成 20 年度及び平成 21 年度は歩行者通行量調査（川西市中心市街地活性化協議会）

調査地点図



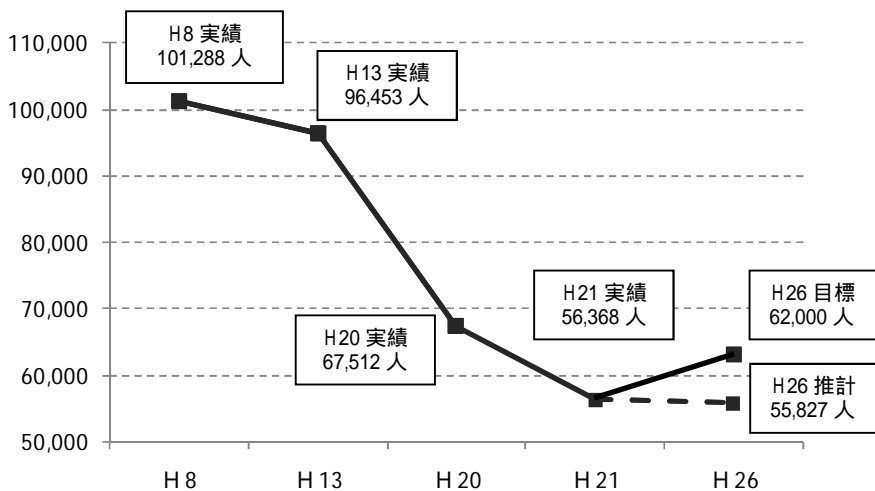
中心市街地において施策を実施しない場合の休日の歩行者通行量の推計値

年次	平成 21 年度	平成 26 年度
中心市街地	実数 (人)	56,368
	指数 (%)	100.0



年次	通行量
H8	101,288
H13	96,453
H20	67,512
H21	56,368
H26	55,827

以上から、数値目標とする増加の考え方は次の通りである。



4) 具体的な数値目標

市街地再開発事業などの実施による効果：3,566人

「01：川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業」の実施により約10店舗（P.67参照）の店舗数が増加することから、休日の歩行者通行量の増加が見込まれる。数値目標の根拠としては、参考数値として、平成19年12月末の全市の人口160,843人及び他市からの15歳以上の流入者数13,639人（P.11参照：平成17年国勢調査による就業者と通学者の合計）の合計に対する平成19年の全市の店舗数963店から1店舗あたりの来店者数を算出すると181人となり、10店舗で1,810人が増加する。

計算式：160,843人（平成19年12月末人口）+13,639人=174,482人

計算式：174,482人（平成19年12月末人口及び流入者数）÷963店=181人

計算式：10店×181=1,810人

）来街者アンケート調査により、休日の「来街交通手段」は、阪急電鉄利用が15.3%、能勢電鉄利用が6.1%、JR利用が2.0%となっている。また、阪急バス利用が21.9%、自動車利用が9.7%、徒歩及びバイク・自転車・その他などが45%となっている。

）川西能勢口駅東地区への買い物客が阪急電鉄及び能勢電鉄を利用する場合は、ポイントの1調査地点を往復で通過し、JRを利用する場合は、ポイントの3調査地点を往復で通過すると思われる。また、阪急バスを利用する場合は、ポイントの2調査地点のうちのいずれかを往復で通過し、徒歩などの歩行者は、川西能勢口駅周辺の全ての調査地点のうちの2ポイントを往復で通過するとした。なお、自動車及びバイク、自転車利用者は、当該事業により新たに設置される駐車場及びバイク、自転車置き場に駐輪するものとして、歩行者通行量の対象としないものとした。

来街交通手段

単位：%

項目	阪急電鉄	能勢電鉄	JR	阪急バス	自動車	バイク	自転車	徒歩	その他
休日	15.3	6.1	2.0	21.9	9.7	5.1	15.3	23.6	1.0

）以上から、阪急電鉄及び能勢電鉄の利用者775人、JR利用者217人、阪急バス利用者793人、徒歩とその他の歩行者1,781人であり、当該事業の実施により商店数が増加し、休日の歩行者通行量については、効果が見込まれる平成26年度末に3,566人の増加をめざす。

計算式：1,810人×(15.3%+6.1%)×1調査地点×2回(往復) 775人(阪急・能勢)

計算式：1,810人×2.0%×3調査地点×2回(往復) 217人(JR)

計算式：1,810人×21.9%×1調査地点×2回(往復) 793人(阪急バス)

計算式：1,810人×(23.6%+1.0%)×2調査地点×2回(往復) 1,781人(徒歩・その他)

計算式：775人+217人+793人+1,781人=3,566人

居住人口の増加による効果：1,768人

）市街地再開発事業の実施や子育て支援などの都市福利活動などの取り組みにより、居住者の増加は759人と見込まれる(P.68参照)。

）来街者アンケート調査で示した「来街頻度」と「利用目的」を参考として、中心市街地を往来する頻度により休日の歩行者通行量を算定する。まず、休日の「来街頻度」は、ほぼ毎日が48.4%、週2、3回が23.0%、週1回が11.7%となっていることから759人のうち58.3%である442人を休日の歩行者とする。

来街頻度

単位：%1位

項目	ほぼ毎日	週2、3回	週1回	月2、3回	月1回	その他
休日	48.4	23.0	11.7	8.2	4.6	4.1

計算式：48.4%+23.0%×35.7%(2.5日÷7日)+11.7%×14.3%(1日÷7日) 58.3%

計算式：：2.5日÷7日 35.7%(週2、3回は2.5日として計算し、1週間の7日に対する割合)

計算式：：1日÷7日 14.3%(週1回は1日として計算し、1週間の7日に対する割合)

計算式：759人×58.3% 442人

）次に、アンケート調査によると、休日の「利用目的」としては、買い物、飲食・喫茶、文化施設の利用、通勤・通学、なんとなく、その他となっているが、2調査地点を往復

で通過するとした。

) 以上から、居住人口の増加による休日の歩行者通行量については、効果が見込まれる平成 26 年度末までに 1,768 人の増加をめざす。

計算式：442 人 × 2 調査地点 × 2 回 (往復) = 1,768 人

かわにしにぎわい創出イベント事業の実施による効果：554 人

) 「25：かわにしにぎわい創出イベント事業」により、休日(土日・祝日)に様々なイベントを実施することや、案内チラシなどでイベント情報を発信することにより、年間を通して休日の歩行者通行量の増加が見込まれる。数値目標の根拠としては、これまでの同種同規模のイベントにおける参加人数の実績を参考にして表の通り算出する。

) 調査地点の通過ポイントについては、各イベントごとに通過する歩行者通行量を推計すると 554 人が見込める。

かわにしにぎわい創出イベントの開催場所及び休日 1 日あたりの参加予想人数

新規イベント名	開催場所	1 年間の開催予定回数(回)	1 回あたりの参加人数の予想(人)	1 年間の参加人数の予想(人) ×	休日 1 日あたりの参加人数の予想(人) ÷ 120 日
ガーデニングコンテスト	中心市街地全域	2	120	240	2
フリーマーケット	中央北地区広場	12	200	2,400	20
ストリート落語	中心市街地全域	12	30	360	3
ストリート音楽	中心市街地全域	12	30	360	3
スポット映画会	文化施設ほか	12	50	600	5
クイズラリー	中心市街地全域	12	100	1,200	10
ストリートパフォーマンス	中心市街地全域	12	30	360	3
トラック市	中央北地区広場	24	120	2,880	24
合計		98	—	8,400	70

資料：かわにし能勢口にぎわいプロジェクト

かわにしにぎわい創出イベントの開催による休日の歩行者通行量の推計

新規イベント名	開催場所	休日 1 日あたりの参加人数の予想(人)	通過するポイントと回数	休日の歩行者通行量の推計
ガーデニングコンテスト	中心市街地全域	2	5 () × 2 回 (往復)	20
フリーマーケット	中央北地区広場	20	4 () × 2 回 (往復)	160
ストリート落語	中心市街地全域	3	5 () × 2 回 (往復)	30
ストリート音楽	中心市街地全域	3	5 () × 2 回 (往復)	30
スポット映画会	文化施設ほか	5	4 () × 2 回 (往復)	40
クイズラリー	中心市街地全域	10	5 () × 2 回 (往復)	100
ストリートパフォーマンス	中心市街地全域	3	5 () × 2 回 (往復)	30
トラック市	中央北地区広場	24	3 () × 2 回 (往復)	144
合計		70	—	554

資料：かわにし能勢口にぎわいプロジェクト

25：かわにしにぎわい創出イベント事業

事業の実施主体：かわにし能勢口にぎわいプロジェクト

事業の実施時期：平成 18 年度以降、毎年継続して実施(新規のイベントは平成 23 年度から実施)

事業の概要

中心市街地内にある公共・公益施設や民間施設、広場や公園などを活用し、まちににぎわいを創出するためのイベントとして「かわにしにぎわい創出イベント」を実施し、路上ライブや街角コンサート、ガーデニングコンテスト、朝市、トラック市、スポット映画会、ストリート落語、情報マップの作成などの取り組みにより、中心市街地に訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなる交流環境を整備し、まちの活性化をめざす。

回遊動線の整備や案内板の設置、サイン案内の整備などによる効果：564人

)「07：みつなかホール周辺(仮称)花の道及び駐車場整備事業」及び「23：パルティ川西 A&H デザイン構築事業」並びに「36：駐車場ナビゲーションシステム構築事業(その2)」などの取り組みにより、回遊動線の整備や案内板の設置など、まちの利用者が楽しみながら回遊できる環境整備により、居住者や来街者がまちを回遊することを予想して、休日の歩行者通行量の増加をめざす。

)当事業の実施により、平成21年度に実施した休日の歩行者通行量が約1%増加すると予想して、休日の歩行者通行量については、効果が見込まれる平成26年度末までに564人の増加をめざす。

計算式：56,368人×1% 564人

効果の推計

以上から、直接的施策による効果及び間接的な効果としての増加が見込まれる休日の歩行者通行量として6,452人の増加をめざす。

計算式：3,566人+1,768人+554人+564人=6,452人

5) 目標達成のための総括表

総括表

項目	増加の要因等	増加額等
現況	平成21年度の休日の歩行者通行量	56,368人
計画	市街地再開発事業などの実施による効果	3,566人
	居住人口の増加による効果	1,768人
	かわにしにぎわい創出イベント事業の実施による効果	554人
	回遊動線の整備や案内板の設置、サイン案内の整備などによる効果	564人
	増加の要因等の合計 = + + +	6,452人
施策を実施しない場合の平成26年度の休日の歩行者通行量の推計値		55,827人
平成26年度の休日の歩行者通行量の目標値：55,827人+6,452人=62,279人		62,279人

6) 参考指標：来街者の平均滞留時間

中心市街地における平均滞留時間は、P.21 の [4] 地域住民のニーズ等の把握・分析で示した来街者アンケート調査(平成 17 年にかわにし TMO が実施)の「滞留時間」(P.22 参照)から、全体の平均値は約 2.2 時間となっている。ただし、「3 時間以上」については、イベントに参加する人や中心市街地で働く人などが想定されるため、平均的な数値として 6 時間とする。また、「その他」は中心市街地の居住者が想定されるため、街なかの滞留時間を 2 時間程度とした。

滞留時間

単位：%

項目	15 分	30 分	1 時間	1 時間半	2 時間	2 時間半	3 時間以上	その他
全体	6.1	13.1	26.7	7.0	17.8	3.6	19.8	5.9
休日	5.6	11.7	26.6	9.2	18.4	1.5	21.9	5.1
平日	6.7	14.4	26.8	4.8	17.2	5.7	17.7	6.7

全体の滞留時間の平均値

単位：時間

滞留時間の種類	計算式	合計
15 分	0.25 時間 × 6.1% = 0.015	0.015
30 分	0.5 時間 × 13.1% = 0.065	0.065
1 時間	1 時間 × 26.7% = 0.267	0.267
1 時間半	1.5 時間 × 7.0% = 0.105	0.105
2 時間	2 時間 × 17.8% = 0.356	0.356
2 時間半	2.5 時間 × 3.6% = 0.09	0.090
3 時間以上	6 時間 × 19.8% = 1.188	1.188
その他	2 時間 × 5.9% = 0.118	0.118
合計	100%	2.204
平均値		約 2.2 時間(約 132 分)

平成 21 年度の現況数値については、平成 17 年度以降の全市及び中心市街地の人口や川西能勢口駅及び川西池田駅の乗降客数が微増、もしくは横ばいであることから、平成 17 年にかわにし TMO が実施した来街者アンケート調査の数値とし、新たに基本計画による取り組みを展開することにより、平均滞留時間の増加をめざす。また、中心市街地活性化基本計画の施策を実施しない場合も同様の理由で、平成 17 年のアンケート調査の数値とする。

評価指標	現況数値 (平成 21 年度)	将来目標 (平成 26 年度)	割合
来街者の平均滞留時間	約 2.2 時間(約 132 分)	約 2.8 時間(約 168 分)	127.3%

目標達成のための考え方

) 直接的な効果がある事業として「25：かわにしにぎわい創出イベント」の実施や、商業活性化のための取り組みにより、全体の滞留時間の平均値を上昇させることをめざす。

) 当事業による新しいイベントの開催により、増加する滞留時間の見込みは休日(土日・祝日)1 日あたり 90 分と予想される。また、増加する参加人数の見込みは休日 1 日あたり 70 人が見込める。

) イベントの参加が見込まれる休日の1日あたりの滞留時間は90分であり、イベント参加者の会場への移動及び買い物や飲食などに要する時間の合計を90分以上と予測して、合計180分(3時間以上)の滞留時間を見込むことができる来街者の増加が予想される。

かわにしにぎわい創出イベントの滞留時間の見込み

イベント名	1年間の開催 予定回数(回)	1回あたりの 予想滞留時間 (分)	1年間の予想 滞留時間(分)	1回あたりの 参加予想人数 (人)	1年間の参加 予想人数(人)
ガーデンコンテスト	2	120	240	120	240
フリーマーケット	12	120	1440	200	2,400
ストリート落語	12	90	1080	30	360
ストリート音楽	12	90	1080	30	360
スポット映画会	12	120	1,440	50	600
クイズラリー	12	120	1,440	100	1,200
ストリートパフォーマンス	12	90	1,080	30	360
トラック市	24	120	2,880	120	2,880
合計	98	—	10,680	—	8,400
休日1日あたりの滞留時間と参加人数(合計÷休日120日)			89	—	70

資料：かわにし能勢口にぎわいプロジェクト

) また、鉄道の乗降客数約14万人や中心市街地に訪れた来街者が、商業施設などへ「ついで買い」のために立ち寄ることを仕掛けるため、魅力的な店舗や若者に人気の高い店舗を配置するほか、共稼ぎ家庭への子育て支援の充実、地域のふれあいの場となり情報配信のスペースとなるコミュニティプラザへの立ち寄りなど、これまで以上に来街者がまちに滞留すると予測できることから、3時間以上の来街者が増加する。

) 以上から、滞留時間が3時間以上の来街者を2倍程度に増加させることをめざし、前述した中心市街地の全体の滞留時間の平均値約2.2時間(約132分)は、約36分程度上昇するとして、計画期間の目標年度である平成26年度については、来街者の平均滞留時間を約2.8時間(約168分)とする。

全体の滞留時間の平均値及び上昇後の平均値

滞留時間の種類	アンケート調査の回答者数(人)	占める割合(%)	滞留時間の合計(時間) x	補正した滞留者数(人)	占める割合の補正值(%)	滞留時間の合計の補正(時間) x
0.25時間	25	6.1	0.015	25	5.2	0.013
0.5時間	53	13.1	0.065	53	11.1	0.056
1時間	107	26.7	0.267	107	22.3	0.223
1時間半	28	7.0	0.105	28	5.8	0.087
2時間	71	17.8	0.356	71	14.8	0.296
2時間半	14	3.6	0.090	14	2.9	0.073
3時間以上	79	19.8	1.188	158	32.9	1.974
その他	24	5.9	0.118	24	5.0	0.100
合計	401	100.0	2.204	480	100.0	2.822
平均値			約2.2時間 (約132分)			約2.8時間 (約168分)

3時間以上の滞留者数を2倍とした。

目標達成のための総括表

総括表

項目	増加の要因等	増加額等
現況	平成21年度の平均滞留時間(平成17年のかわにしTMO調査の数値を採用)	2.20時間(132分)
計画	かわにしにぎわい創出イベントの実施や「ついで買い」による効果	0.60時間(36分)
施策を実施しない場合の平成26年度の来街者の平均滞留時間		2.20時間(132分)
平成26年度の来街者の平均滞留時間の目標値：2.20時間+0.60時間=2.80時間		2.80時間(168分)

[4] フォローアップの考え方

事業の進捗状況については毎年度確認し、必要に応じて事業進捗を図るための措置を講じていく。また、計画期間の中間年度にあたる平成24年度には、数値目標の達成状況について検証し、必要に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。さらに、計画期間の最終年度である平成26年度についても再度、各種事業の実施状況や数値目標の検証を行う。

数値目標に対するフォローアップの時期と方法

数値目標の項目	目標値(目標年度)	フォローアップの時期	フォローアップの方法
年間商品販売額(小売業)	約540億円(平成26年度)	平成24年度(中間年度) 平成26年度(目標年度)	商業統計調査などの結果をベースに検証を行うとともに、平成23年より5年ごとに実施される予定の経済センサスの結果により、継続的に状況を把握し、事業の進捗状況とあわせて目標の達成状況の検証を行う。
休日の歩行者通行量	約62,000人(平成26年度)	平成24年度(中間年度) 平成26年度(目標年度)	平成22年度以降実施する歩行者通行量調査、平成23年度以降実施する来街者アンケート調査などにより検証を行う。
参考：来街者の平均滞留時間	約2.8時間(約168分)(平成26年度)	平成24年度(中間年度) 平成26年度(目標年度)	平成23年度以降実施する来街者アンケート調査などにより検証を行う。

[5] 川西市中心市街地活性化基本計画の概略

川西市の概要

大都市に近く、豊かな自然に囲まれた住宅都市
多くの市街地再開発事業を実施

少子・高齢化の進行
社会経済変化に伴う、中心市街地での活力の低下
近隣市町に大型商業施設が立地し、来街者が減少
商業施設の老朽化

中心市街地の概況

鉄道やバスなど、公共交通機関の結節点
市役所、文化施設などの公共・公益施設が集積
商業施設の集積

駅東地区第2工区の市街地再開発事業の遅れ
大規模な土地利用転換や都市基盤整備の遅れ
交通結節点であるが、通過客が多い

地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

人口・世帯数は微増傾向
鉄道3駅の乗降客数は約14万人

昼間人口は夜間人口の約8割
人口の流入と流出は約3万人の流出超過
小売業の商店数と年間商品販売額は減少傾向
駅間から周辺への回遊が少ない

地域住民のニーズ等の把握・分析

徒歩・自転車での来街者が多い
日常的に中心市街地を利用
ほぼ毎日食料品を中心に1時間程度滞留する
大学生・高校生も多くみられる

不法駐輪による通行の妨げ
高校生・大学生を取り込めていない
映画館や公園・緑地などの施設が不足

これまでの中心市街地活性化の取り組み

平成12年度に旧基本計画を策定
平成15年7月にTMO認定
区域面積は約300haとし、63事業を設定

まちづくり活動の連携不足
資金不足などによる、事業の継続性に乏しい
滞留する空間・施設が不足している
後継者不足などによる閉店に伴う商業衰退

川西市における上位計画

第4次総合計画において、中心市街地を都心核に
設定
同総合計画により、これまで以上に市民と行政に
よる協働とパートナーシップのまちづくり推進

中心市街地の課題の分析

中心市街地で買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のある商業環境をつくること

川西能勢口駅周辺は、市街地再開発事業などにより、様々な機能をもつ市街地として整備されてきたが、川西能勢口駅東地区第2工区については事業化が遅れ、駅東地区周辺の商業活力が低下している。

中央北地区は、中心市街地における大規模な遊休地であり、新しい地域交流拠点づくりによる土地利用の転換が求められている。

再開発ビル内における空き店舗の顕在化により、年間商品販売額（小売業）が低迷し、商業の活性化が進んでいないため、早急に再開発ビルをリニューアルするなど、魅力的な施設にする必要がある。

比較的規模が小さな駐車場が市街地に点在していることや、駐車場の認知度の低さなどにより、効率的な運用が図られていないため、駐車場ナビゲーションシステムの構築を推進する必要がある。

一時こども預かり所の開設やバリアフリー化など、あらゆる世代に対応した買い物環境の整備が求められる。

中心市街地に訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなる交流環境をつくること

中心市街地の歴史的・文化的資源や景観資源、社会資本、産業資源をうまく活用しながら、商業活性化などのための様々なイベントを行い、魅力的で活気のあるまちにすることが必要である。

川西能勢口駅東地区第2工区の市街地再開発事業や再開発ビルのコミュニティプラザの設置などの施設整備による新しいにぎわい空間や、にぎわい創出イベント会場、その他の活性化のための様々なイベント会場を結び、人が集い回遊する仕掛けが必要である。

川西能勢口駅と川西池田駅の乗降客数は約14万人であるが、街なかに立ち寄らないため、魅力的な商業空間の整備や新たに個性的なテナントを誘致するなど、「ついで買い」を誘発させる。

コミュニティセンターなど市民への情報配信や、商業・サービス機能の更新や充実が求められている。

商店会や地域住民など地域の関係者が協働して活性化のための取り組みを推進し、来街者がまちを回遊する仕掛けが必要である。

中心市街地の居住者や利用する市民にとって、安全で便利なサービス環境をつくること

共稼ぎ家庭に対する子育て支援やファミリーサポートの充実など、誰もが働きやすい環境の整備が必要である。

中心市街地は、市役所や総合体育館、市民温水プールなどの公共・公益施設が広く分布しているが、これらの施設を結ぶネットワークが構築されていないことから、歩行者動線の整備やシャトルバス運行の検討を進める必要がある。

みつなかホールや文化会館などの芸術・文化施設、街なかギャラリーなどが立地しており、様々な文化や芸術に触れやすい環境にあるが認知度が少ないため、案内マップなどの情報発信を促進する。

中央北地区の新しいまちづくりにより、中心市街地の総合発展と中央北地区の生活環境改善のための取り組みを進める必要がある。

区域面積：約 80 ヘクタール

目標を実現する 37 事業

基本方針と目標		番号	事業名	基本方針 1	基本方針 2	基本方針 3		
<p>基本方針 1 買い物を する人や商 売をする 人にとっ て、魅力 的で活気 のあるま ちをめざ す</p> <p>基本方針 2 訪れる人 や暮らす 人にとっ て、楽し みながら 回遊した くなる 『かわに しのせぐ ち』の 創造</p> <p>基本方針 3 居住者や 利用する 市民にと って、安 全で便利 なまちめ ざす</p>	<p>目標 1 魅力的で活気のある 『かわにしのせぐ ち』の 創造</p> <p>数値目標 年間商品販売額 (小売業) 約 536 億円 (平成 21 年度)</p> <p>約 540 億円 (平成 26 年度)</p> <p>増加率 100.0%</p> <p>目標 2 楽しみながら回遊した くなる 『かわにしのせぐ ち』の 創造</p> <p>数値目標 休日の歩行者通行量 56,368 人 (平成 21 年度)</p> <p>約 62,000 人 (平成 26 年度) 増加率 110.0%</p> <p>参考指標 来街者の平均滞留時間 約 2.2 時間 (平成 21 年度)</p> <p>約 2.8 時間 (平成 26 年度) 増加率 127.2%</p>	市街地の整備改善に関する事業	01 川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業	●	●			
		02 中央北地区特定土地区画整理事業			●			
		03 都市計画道路火打滝山線東側歩道拡幅事業					●	
		04 都市計画道路せせらぎ遊歩道新設事業					●	
		05 回遊動線形成促進事業			●	●		
		06 川西能勢口駅東整備構想策定事業				●		
		07 みつなかホール周辺(仮称)花の道及び駐車場整備事業				●		
		08 みつなかホール・ドラゴンランドへの動線整備計画の検討				●		
		都市福祉施設の整備に関する事業	09 情報配信システム構築事業			●		
		10 ファミリーサポートセンター事業			●	●		
		11 一時子ども預かり所開設事業			●	●		
		12 地域子育て支援事業			●	●		
		13 市立中央図書館子ども読書サポーター事業			●	●		
		14 コミュニティ・スペースにぎわい空間整備事業			●	●		
		15 交通バリアフリー重点整備地区基本構想に基づく道路特定事業				●		
		街なか居住に関する事業	01 川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業(再掲)			●	●	
		02 中央北地区特定土地区画整理事業(再掲)					●	
		05 回遊動線形成促進事業(再掲)				●		
		16 パルティ川西リニューアル支援事業				●		
		商業の活性化に関する事業	07 みつなかホール周辺(仮称)花の道及び駐車場整備事業(再掲)				●	
		09 情報配信システム構築事業(再掲)			●			
		17 川西まつり				●		
		18 猪名川花火大会				●		
		19 源氏まつりミニイベント				●		
		20 みつなかオペラ				●		
		21 アステ川西地下 1 階リニューアル事業			●			
		22 アステ川西大規模改修事業			●			
		23 パルティ川西 A & H デザイン構築事業			●	●		
		24 アステ川西バイク・自転車駐輪対策事業			●			
		25 かわにしにぎわい創出イベント事業				●		
		26 かわにし朝市				●		
		27 光のオブジェ展				●		
		28 JAM・HOP・CARNIVAL				●		
		29 アステかわにし繁昌亭				●		
		30 夢宿フォトコンテスト				●		
		31 花と緑のアステ川西プロジェクト				●		
		32 イチジクの即売会			●			
33 桃の即売会			●					
34 かわにし寄席				●				
35 金太郎プロジェクトの実施					●			
交通に関する事業	08 みつなかホール・ドラゴンランドへの動線整備計画の検討(再掲)				●			
36 駐車場ナビゲーションシステム構築事業(その2)					●			
37 川西能勢口駅周辺と中央北地区を回遊するシャトルバス運行の検討					●			
合計	37 事業(合計のうち、基本方針 1 と基本方針 2 との重複は 6 事業)			12	26	5		